
メルマガ

トマト男爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メルマガ

【Nコード】

N5729C

【作者名】

トマト男爵

【あらすじ】

『死亡事故』を予言する『メールマガジン』。人は、その魔力には逆らえない…

『歩道橋』

『Dead-End』。今ひそかに人気急上昇しているアングラサイト。何でも、超能力者や占い師、はては心理学者まで集めて、『死亡事故』の起きる場所を予告、さらに念写？による現場の死体写真までメルマガで送られてくるサイトらしい。

“YNK”という女性が管理人らしい位しか分からない。薄気味の悪い反面、その謎めいたところがこのサイトの魅力らしい。

1日のアクセス数が数千にもものぼるこのサイトに興味を持った私も、見てみることにした。

一度見てみる位なら構わないだろう…そう思い、サイトを探した。

…あるサイト内のひとつのページにしか無い入口。だがそのページは、あまり見たくない画像ファイルだった…

生きたまま解剖された女性の画像。

顔は俯いていて判らないが、全裸にされて吊されている。

画像の下にある、小さなクリックマーク。ついに私はその領域に立ち入ってしまったのだ。登録は簡単なもので、登録料もかからなかった。住んでいるエリアとメールアドレスを登録して、後はマガジンを待つだけだった。

4日程して、ついにメルマガジンがきた。内容は

『〇〇市の 二丁目交差点の歩道橋で今日午後7時』という文で、画像ファイルが添付されていた。

「これか…」

そこには、歩道橋の上から下を見下ろす、首無しの人間がほぼ真下からのアングルで写されていた。

「何だ、これは…？」

これが『念写』による『現場写真』なのだろうか…

「今は3時か…」

5時過ぎには仕事が終わるし、間に合いそうだ。私は急いで今日の

仕事を済ませて、歩道橋に向かった。

今は午後6時50分：後少しでここは『死亡事故』の現場になる。何故か、私の胸は高鳴っていた。誰も知り得ない情報を持つ、それがこんなにも刺激的だとは知らなかった。

「もし、本当に事故が起きたら…」

未だに歩道橋には人の姿は無い。やはり、予知などできる訳はない。ここで私はあの首無し死体は何を見ていたのかが気になった。

「行ってみるか…」

私は歩道橋を登り始めた。数分もしない内に、私は写真の場所に立ち、下を見ていた。

行き交う車、歩道のまばらな人影。街路樹も、特に目を引くような気配はない。普通の日常的な風景だ…

「特に何も無い、か…」

その時、突風が吹いた。歩道橋の上にある電線が、突風に煽られて切れた。鋼線がターザンロープのようにしなり、男の首を切り落とした。

男の首はほぼ真下に落ち、その顔は真上にある自分の身体を見つめていた。

「予知通り、か…」

やがて、男の顔を真上から滝のように落ちる血が打ち始めた。

『試着室』

そのサイトを知ったのは、オカルト好きな友達の噂話が始まりだったんだ。

最近流行りの都市伝説らしくて、正直ちよつとパスしたかった。なのに、どうしてもそのサイトを見たくなくなったんだ…えっ？理由は分かんない。それで、そのウワサのサイトのアドレスにアクセスしたの…不思議なんだよ？アタシ、アドレスとか覚えるの超ニガテなのに、すらすら入力できたんだよ？

今思えば、あの時にもうハマってたんだよね、アタシは…

メアドと住んでるエリアだけ登録して、メルマガくるのを待ってたんだ…そしたらホントにきちちゃった。

『○市 7丁目の二越デパート内、試着室』

なんて書いてあって、写メの画像ファイルがあつたから見てみたんだ…試着室の中で胸の真ん中辺りを鉄パイプみたいなので串刺しにされた女性…顔は見えなかった。

「やだっ、何なのこれ!？」

アタシはすぐに画面を消して、忘れることにした。だって、キモいじゃん。マジでヤバイ、そう思った…でも、忘れちゃイケなかったんだよね…

数日後、アタシは友達と服を買いに行った。いつものお気に入りの店、デパートの三階にあるストリート系の店 結構イケてるんだよね
この服

「あ、これイケてる!」

アタシは試着室に入って、着替え始めた。うん、やっぱりいい感じだよね。満足して鏡に見入ってたら

ガラガラと大きな音がして友達の声が聞こえた。

「 逃げてええっ!」

でも、その声は遅すぎた。背中と胸の辺りに衝撃がきて、次に身体

の力が抜けていった。

「何、これ…？」

アタシの身体に、鉄パイプみたいな物がはえていた。ううん、そうじゃない。アタシの身体に鉄パイプが刺さってるんだ…

これって、移動式のハンガースタンドだよな？痛みの中で、そんな事を考えた。そして、次にアタシは気が付いた。

「あ、これ…」

目の前の鏡に写ったアタシは、あのメルマガの画像そのものだった。それがアタシの頭に浮かんだ最期だったんだ…

え？今のアタシ？今のアタシは『こつち側』にいる。『彼女』と一緒に…

駐車場

「ん？何だ、こりゃ？」

変なメールがきてる…あ、こないだのヤバそうなサイトのメルマガ
つてやつか…しかし、やけに飾り気の無いメルマガだな…

『 月 日、 ○ 駐車場、午後23時』

ん？画像ファイルがついてるな…

「うわわっ!？」

頭の上半分が無い人間を地面すれすれから見た画像…キモい、キモ
過ぎる…っーか、普通こんなコト起きねーって…

そんなツツコミをいれたりしたのに、俺はそんなメルマガなんかす
っかり忘れて遊びに出た。

「…んでさあ、ミオの奴がさあ…」

コンビニ前でダベってたらダチの携帯が鳴った。

「やべ、先輩だよ…」

俺等の共通の

「先輩」。急に呼び出して、オールにつきあわされる。まあ、全部
ゴチしてくれるから、まるつきり迷惑なわけじゃない。

「クルマ買ったから試乗会やるってさ」

○ 駐車場、時間は午後10時過ぎ 　ん？ 　駐車場？どつ
かで聞いたような気が…？

「先輩、リアウィングすごいっすね!」

今流行りのスポーツカーに人気のパーツ。特に、後部につける羽根
のようなパーツは、今一番人気の大きな薄いタイプだった。

「おい、気を付けるよ、それ、へたに触ると切れるからな…」

確かに、先の方は剃刀のような鋭さだ。

「よし、それじゃ試乗会やりますか…そっちに出すから後ろ見てく
れ」

たまたま後ろにいた俺が合図を送る。

「オーライ、オーライ」

ゆっくりと下がりがりだす車、いきなり…パチツという音がして、顔に衝撃がきた。

「痛てっ…!?!」

小石が俺の頬に当たったみたいだ。多分、後輪がはねたのだろう。

「あぶな…っ!?!」

ダチの声が聞こえた瞬間、鼻の上辺りに痛みと衝撃がきた。一瞬目を閉じ、開くと俺は上を見上げていた。…立ち尽くし、頭の上半分が切断された俺の後ろ姿…これって、あのメルマガの……俺の記憶は、そこで途切れた

『交差点』・連鎖の始まり（前書き）

長らく開いてしまいました。放置していたわけではないんです。どうしても、上手く次に繋がらなくて…最後は「おや？」と思われるかもしれませんが、これは次回作の伏線的なものですのでご了承ください。

『交差点』・連鎖の始まり

「悪い、俺、携帯停まってるだろ？それでさ、お前のメアド借りてメルマガ登録しちゃったから、きたら教えてくれ」

悪友からの身勝手な言葉にため息で返事するボク。この程度のコトで目くじら立ててちゃ、コイツとは付き合えない。

「もう来てるよ。」

今朝受信していた怪しいメールの正体が今やっとわかった。まだ内容を覚えてないから、二人で見ることにする。

「うそ……」

「マジ…!?!」

思わず目を見開いた、その内容というのは

『@ 市内、北二丁目交差点、午後6時』という文章と、二台のトラックに挟まれた人の姿の画像ファイルだった

「何だよ、これ？」

答えを聞いたボクは愕然とした。『死亡事故の予言メール』…そんなモノがあるなんて……

「まだ1時だし、夕方まで待つて見に行ってみようぜ…マジだったらヤバすぎだよな？」

何か嫌な予感がしていた。本当は行くべきではなかった筈なのに、ボクたちは行ってしまった

午後五時過ぎ、北二丁目交差点の信号機の下にボクたちは立っている。

行き交う車やバイク、買い物帰りの主婦や塾に向かう子供…いつもと同じ風景がある。

「本当にこんな所であんな事故が起きるのかな？」

ボクはまだ信じられないでいた。もうすぐ6時になるつかという時に、『それ』は起こった…

交差点の信号機が、全部同時に青に変わった。たまたま車がいなか

ったので、大した混乱は起きていない。このままじゃ大変だ…ボクはもう一度信号機を見て驚いた。

「戻ってる…？」

そして、道路に目をやったボクは息を呑んだ。

「おいっ…！？」

悪友が交差点の真ん中に立ち、ボクに向かって叫んでいる。

「なんかこの信号機おかしいぞ！？」

彼の右と後ろが青になっていて、二台のトラックが迫ってきている…！

「逃げろッ…！」

ボクの声は間に合わなかった…二台のトラックに挟まれたあいつの姿は、メールの画像そのものだった…

「救急車…！」

ボクは、慌てて救急車を呼んだ。もしかしたら、助かるかも…
だけど、それは

『交差点』・連鎖の始まり（後書き）

如何でしたでしょうか？一応これで『メルマガ』は終わりです。『ハ
ンカク』からお付き合い頂いた方にはお分りかかと？そうですね、こ
れは『彼女』の仕業です。そして、シリーズ最後の作品に繋がります
ので、そちらにもお付き合い頂けたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5729c/>

メルマガ

2010年10月10日00時24分発行